

彼方 【かなた】

校長通信

H30.1.9

Vol.25

【メメント・モリ】

2018年のスタートです。二名の転入生を加え、七五〇人で三学期を迎えることができました。三年生にとっては進路実現を通して、九年間の義務教育のまとめをする大切な学期です。一、二年生にとっても、それぞれ最高学年として、後輩を迎える学年として、その心構えをつくる大変重要な学期となります。

そこで皆さんに大切な言葉をひとつ伝えたいと思います。それは「メメント・モリ」という言葉です。

この言葉はラテン語で、「死を記憶せよ」というように訳されます。「人は必ず死ぬ、人生は一度きり、いつ死ぬかわからない」というような意味合いです。

私は七年前、二〇一一年三月十一日に、この「いつ死ぬかわからない」ということを心の底から思い知らされました。年齢も性別も地位も名誉も財産も全く関係なく、大地震による大津波が、すべてを呑み込み、東日本大震災では、三万人にも及ぶ人たちの命が一瞬のうちに奪われてしまいました。ところが、平穏な日常が送られるようになってという記憶がどんどん風化し、色々なことを気にしなくなってしまう。「人のために自分ができることは……」
「家族や自分を大切にすること……」。「今を一生懸命に生きなきゃ……」。「当たり前は、幸せなんだ……」とか、その頃いつも思っていたのに、だんだん意識しなくなっているのも事実です。

「メメント・モリ」という言葉は、勝ち戦が続いている将軍が、「いつ負けて死ぬかわからない！最善の備えを！」という気持ちを忘れないように、自分の後ろでいつもつぶやくように家来に命じた言葉だそうです。私は、三学期の初めにいつもこの話をします。それは、「いつ死ぬかわからない」ということを自分自身に言い聞かせるのと同時に、皆さんにも悔いのない人生を送って欲しい、自分の人生を切り拓いて欲しいと願っているからです。

昔教えた生徒でとっても勉強が嫌いな生徒いました。「今からそんな適当にやったら高校進学も大変になるよ。」と話しかけたら「いいよ、先生。どうせ俺は、家の跡継ぎだから勉強なんかしなくても。高校なんか行かなくても別に大丈夫さ。直ぐに働けるから。」と言って、全く聞く耳を持たずにいい加減な生活を続けていました。それを見かねた父親が家で話をしました。「お前には家業を継いでもらいたくない。お前は、何のためにこの仕事をするんだ？」と。彼は、自分の父親が何のために仕事をし、その為にどれだけ一生懸命勉強をしたかということを初めて聞かされました。いい仕事をするためには沢山の学びが必要だということも、その時初めて実感したのです。何の「志」も持たずに生活していた彼は、改めて父親の仕事や自分の生き方を見つめ、将来について考え、本気で「家業を継ぐ」決断をしたのです。それからの変化は速かったです。勉強が嫌いだっただけも三学期から真剣に勉強するようになりました。わかりたい、できるようにになりたいという気持ちが強くなった分、質問も多くなりました。できるまで

先生や友達に聞くようになりました。あれだけ嫌いだっただけ勉強が少しずつできるようになりました。わからないことがわかり、できなかったことができるようになる。勉強することが嫌ではなく、だんだん楽しくなってくるのです。そして以前とは全く違う彼がそこに座っていたのです。



『毎日を生きた最後の日だと思つて生きよう。いつか本当にそうなる日が来る。』この言葉に感銘を受けて以来三十三年間、毎朝、鏡の中の自分に問いかけています。

『今日で死ぬとしたら、今日は本当にすべきことをするのか？』と。もしその答えが、何日も『NO』のままなら何かを変える必要があると気づきます。周囲からの期待、失敗や恥をかくことへの恐怖心、こんなものは、『死』の前では全てなくなってしまいます。素直に自分の心に従うだけです。時間は限られています。あなたが本当に求めるものを大切にしてください。癌で亡くなったアップルの創業者、スティーブ・ジョブズがスタンフォード大学の卒業式で話した有名な式辞の一部です。終業式で話した、「振り返り」をして「何をするか」決断して欲しいという話の意図もこれと同じです。

「メメント・モリ」という言葉は、「悔いのない人生」を私たちに投げかけてくれる言葉です。是非心に留めておいてください。

最後に「未来を拓く君たちへ」なぜ我々は「志」を抱いて生きるのか」という著書を紹介いたします。